



審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 委嘱状交付

市長より委嘱状が交付された。

2 あいさつ

市長よりあいさつがされた。

3 自己紹介

4 委員長・副委員長の選出

委員長に野口委員、副委員長に河村委員が選出された。

委員長：お手元にあるように第2期計画書、概要版を2年かけて策定した。地域福祉計画・地域福祉行動計画は作っただけで実施していかなければ何の意味もない。住民主体の実施を議論してきた。住民が動きやすくするにはバックヤードがしっかりしなければならない。社協と行政の支援を抜きにはできないだろうとして作ってきた。ここにいるメンバーが一体となって実施していくことになるので、また一緒に汗をかいていただきたい。よろしくお願いします。

副委員長：社協として、多岐にわたる市民計画に関わってきた。先日、支会活動推進委員会でも説明があった。第2期計画の推進については、支会活動の柱になる。皆さんと協力しながら本意を曲げることなく進んでいきたい。

5 議事

議題（1）第1期岩倉市地域福祉計画の報告について

資料3を用い、事務局から説明がされた。

委員長：第1期計画は4つの部会で全市的に取り組んだ。当初、盛りだくさんの項目を出したが、具体的に取るもの、活動に至らなかったものもある。事務局からは、実施できたところについての報告をいただいた。第2期計画を策定する段階でも部会のあり方について反省点もあり、小地域で具体的に目に見える形に置き換えられるようなものにしていくことはできないかというのが第2期計画の課題でもあった。部会のメンバーの方々は自分の時間を使い取り組んでいただいた。

資料4を用い、事務局から説明がされた。

委員長：第1期計画の推進は、「いわくら福祉市民会議」と「いわくらあんしんねっと」が大きな枠組みである。あんしんねっとは専門職部会と協力者部会の関係も含め、第2期計画も大きく変えていない。ただ、顔の見える関係だけでなく、横断的に総合支援体制のネットワークを作っていくその根幹という意味で丸ごと相談室（仮称）を作っていくことをあげて、第2期計画の中で取り組んでいこうとなっている。

また、推進委員会の事務局は社協と行政で取り組んできたが、第2期計画は支援体制共同事務局会議とし、さらに一体となって取り組んでいく。第2期計画の策定の段階で、部会同士の連携を図るため、庁内の連絡調整も立ち上がってきた。第2期計画の策定と第1期計画の推進を同時に行ってきた。報告としてはここまででよろしいか。

委員：あんしんねっとの報告について、具体的な日にちがあつたりなかったり、具体的な参加者や団体がよく分からなかったりする。回数ごとにまとめられていると意見が言えるが、漠然と

している。

委員長：次回に向けてどういう開催だったか整理しておく必要がある。ついでに言うと、あんしんねつとを立ち上げたときに、少なくとも専門職の独り舞台にならないように、あるいは障がいや子どもなど領域ごとに横には繋がっているかもしれないが、領域を超えたところでどういう活動をしているのかという情報が取りにくいのではないかとということがあった。分野を超えた地域というところで、それぞれの協力者、ネットワークを作っていくという発想があったので、同志というネットワークを作ろう。専門職と団体との協力関係もある。そういう意味で「顔の見える連携」において取り組んでみた。岩倉市は狭いというが、多くの活動グループがある、ただ必ずしも地域福祉で活用しきれていないということもある。第2期計画はそれぞれ独自で行っている認知症、障がい者、子ども、ボランティア等で活動している方々が、地域で全体的にネットワークを作りながら、地域福祉の観点で協力し合っていくという方向が作られるといいと思って残した。

第1期計画では、頑張っているが地域福祉計画・地域福祉活動計画といわれても地域の人がぴんと来ていないとの指摘を言われていた。第2期計画では、概要版をスリムにして配付して多くの人と進めていこうと心掛けている。

#### 議題（2）第2期岩倉市地域福祉計画の推進について

資料5、6及び参考資料を用い、事務局から説明がされた。

委員長：計画を作ると疲れて、次の年度を何となく過ごしてしまいがちだが、5年間の期間であるので、早々から議論をしてきた。まずは、いわくら福祉市民会議をどうやって、小学校区ごとに校区会議ができるか、いくつかテーマがあり一遍には難しいが、集まった方ができるところからやってみよう。それと同時に第1期計画は全市的に部会ごとにやってきたが、第2期計画は小学校区ごとに5つに分かれるので、どう支援していくのか議論が必要になる。ただ校区の住民にお願いするだけでなく、校区ごとに担当が張り付きながら、立ち上がりを含めて支援していくことになると思う。それと同時に少なくともリーダーが必要になってくるので、リーダー養成をどうするのかということで、8月9日に協働推進課が主催する地域リーダー協働講演会に参加していただくということになった。5月20日の今年度第1回目の会議に68名が集まったことは結構な数ではないか。そこで自分たちの校区を安全安心な地域にしていくのかということも議論していただけたかと思うので、そこを一つの起点にしていきたいということで話が進んでいる。そのひとつのきっかけになるということで、7月14日にキックオフフォーラムにおいて小地域福祉活動の実践を聴いていただく場を企画したので、委員の皆さんも宣伝をお願いします。今年度の前半はこのように動かしていき、年度後半には校区ごとの市民会議を何とか立ち上げたいというのが今年度の目標である。

あんしんねつについては、引き続き専門職や活動団体とどう連携・協働ができるか模索していきたい。それを支える意味でも事務局会議がどう連携していくか。じつに難しい。地域福祉計画はここに誰かを引っ張っていくとか、目標値があってそれに従っていついつまでにかこうしようというノルマがあるわけではない。岩倉市が安全安心して住み続けたいと思う地域にしていくためには、どんな風にしていくのかという理念はあるが、いろんな方法があるので、どこをチョイスしながら、自分たちができる方法に置き換えていくかということ

根気強くやっていかなければならない。

委員：フォーラムの定員 80 名というのは消極的ではないか。もう少し先を考えると、一般市民その他を呼ぶには、広い場所でやらないともったいない。多くの方に聞いてもらって、その次に進める。校区ごとだと、東小など厳しいと思うので、世帯数で区切って目標をもってやるなどしないといけない。会場に合わせた人数とするのか、知ってもらいたい人に合わせて会場を設定するか。

委員長：フォーラムの講師は 1 度で終わりではなく、2 度 3 度来てもらえると思うので、今後一般市民向けに話をしてもらいたいようなお願いもできるので、今回はこの流れでやってみてはいかかかと思う。規模については、各校区を回ることもありだし、大きな会場を設定することもありだと思う。

校区にこだわっているわけではないが、小地域の推進圏域としたときに、岩倉は 30 行政区あり区切りなど微妙なところもあるが、入り組んでもいいのでそれくらいの規模でやってみようとなった。また社協からも指摘があったように支会との関係もある。校区でなければいけないわけではなく、ひとつの小地域で何ができるだろうか考えていこうというのが第 2 期計画の一つのやり方である。全国的に見て小学校が消えていく地域は脆弱化してしまう。5 つの小学校を守っていかないと岩倉が継続していかないとということにもなる。中山間地域では一番の問題である。

5 月 20 日に実施した第 1 回いわくら福祉市民会議の報告を聞いていて思ったことだが、作業シートをどう記録して活動に繋げていくかということをお我々も覚悟して読み込んでいかないといけない。

委員：フォーラムに関して、この推進委員会は福祉関係の団体代表に委員を委嘱しているが、我々が案内をもらい参加しようと思う、そのレベルでいいのか。それとも団体に持ち帰り、メンバーにも参加を促してもらいたいのか。最終的に計画を進めていくにあたっては、いろんな意見をもらったり、参加してもらいたいのは現場の人たちになる。どういうタイミングで周知しようとしているのか。今もらっても会員におろせない。

特に区長は今年度の仕事でとても忙しいと思う。どの団体でもいえることだが、一年役割を終わった方は地域のつながりができているので、声をかけてつなげられるといい。

委員長：正直なところ、よく 5 月に 1 回目の市民会議をやったと思うくらい、第 1 期計画のとりまとめと第 2 期計画の策定でぎりぎりまで力を使ったので、5 年を時間軸としたこれからどうするという戦略会議まで詰めていない。きちんと事務局で詰めたうえ文書で確認をいただきたい。これからの人材は地域で活躍する人はもとより、OB や OG の掘り起こしていくことも必要になる。

委員：区長もなり手がなくて同じ人がやっている状態だ。そこに推進といってもその先が広がり難しい。岩倉市の人口が維持しているのが不思議なくらいで、私の子どもも市外に出ているし、自分の同級生もほとんどいない。新しい人が増えているのだろうか。消極的な発言になってしまうが。

委員長：ただ岩倉市は増えもしないが減ってもいない。適正な規模で維持している。ということは新しく入ってきた人がいる。その方々を人材として取り込めるか。そのあたりが一番難しいところであるが、そろそろ本格的にやらないといけない。私は見ている、確かに日本全体が

高齢化しているが、地域デビューしていない人はいるのではと思う。若い人々を捉まえるのは難しいかもしれないが、高齢者部会でも出ていたが、アクティブシニアの開拓をどうするかがカギであり、そういう人々を地域デビューさせていくかはやっていかないとはいえない。そうすると60歳代後半のシニアをどう迎え入れていくか。

委員：認知症サポーター養成講座に参加してくるのは、認知症を予防したい人が多い。本当はリーダーになってもらいたい地域で広めたい。リーダーとは何をやるかというところまでは詰めていないが、講座をやった中で何かをやりたいという人の名簿は集めている。実際にできないかと思っている。日本全体が縮小しており70歳まで働けという中、60代の動ける人がほとんどいない。女性がほとんどであるが、高齢化し、自分自身が心配になってきている。新しい人の補充が難しい、私たちの活動は昼なので、仕事を持っている人との接点が夜だけになってしまい、私たちと合わない。協力者は自分の休日をボランティアで提供するなど、意識の高い人に無理してお願いをするような形でしか講座の調整ができない。

委員長：少しずつ打開しないと先へ進めない。なぜ難しいか。どうしたら難しい問題を打開する術があるのか。

委員：先日、視覚障がい者の集まりに出かけた。障がい者のネットワークを広げたいがどうしたらよいか。障がい者部会の報告を受けたが、一言で言っても障害にもいろいろある。どういうところでその方を吸い上げられるか。私は防災に取り組んでいるので、もし今家でひとりのときに地震が来たらどうすればよいかを尋ねると、外に出ても危ないから家の中にいるという。要援護者名簿の申請すら知らない。大きな事をやるより、そうした人が地元で集まって、その中で話を聞くほうがよい。参加者をフォローする立場でボランティアと一緒に相談してあげられる場があるとよいと思った。地域でやっていけるようになるとよい。障がい者部会がどのような活動をしているのか気になる。自分もどう参加できるかなと考えている。他の障がいでもどう避難したらいいかなと考えている。他に、ヘルプカードも知らない人が多い。また歩きスマホが多いということも聞いてきた。

委員長：おそらく当事者や関わっている人には既に活動がある。それがどう地域に情報として伝わっていくのか。もう一つは、したいこととやれることが結びつかない。支援センターもやっているが、地域福祉計画でどう受け止め展開していくのかというところが、全体や校区ごとの議論が重要である。先ほどアクティブシニアという話をしたが、そういう方はいるがまだ仕事を持っている、せっかくなので自由な時間が欲しいということだと思う。それはそれでいいので、何分の1でも地域と繋がっていくことがどれだけ自分の人生の中で重要かということ、分かってはいるのかもしれないが、即行動につながらないという人がたくさんいるというのが今の日本の現状だと思う。その受け皿を作っていくということにもなる。

委員：第2期計画のスタートに当たって、予定が順調にいけばいいと思っている。策定にも顔を出しているが、気がかりなことは、できるだけたくさんの方が結集することが大事である。校区ごとにまとまって地域の課題を中心に推進するために動いているが、5つの学校区それぞれひとりでも多くの方が関わって地域の方ができることが一番重要だと思っている。この前の市民会議に参加したが、校区によってばらつきがあると感じた。次回9月に向かってできるだけ、校区間で差が出ないようにしてほしい。私も地元の区長に会うたびにできるだけ参加するようにけしかけ、次の機会に備えるように言っている。議論するときに外野からもの

をいうのではなく、当事者になって少しでも考える人が一人でも多く参加する。それがエネルギーになって次に成果が生まれてくると思うので、9月の会合を形あるものにまとめていくというのが重要だ。その前にキックオフフォーラムと講演会が予定されているので、これも理解を広めるひとつの手段になる。ちらしで案内しているのは分かるが、はたして期待どおりにいくかどうか注視しながら、できるだけ多くの人に参加して、市民会議の中でお互いに協議に参加し、悩みを訴えあえ、情報を収集しあえるということが少しでも多い場づくりに没頭してもらいたい。

委員： いわくらカルタはどこまでできたか。縁側サロンの普及にも繋がる。最近、日赤の活動でもすごろくを利用している。

事務局： いわくらカルタは、すでに読み札と絵札とも完成している。かるた作成には、もともとサロンを円滑に進め行くツールというのも目的にあり、地域サロンのほか小学校、児童館、放課後児童クラブで配布を始めている。また貸出用に社協で20セットほど持っている。合計100セットほど作成した。

委員長： どういう経緯でできたかという看板があったらよい。

委員： 第2期計画は、平成30年度から5年間で実施する。5年間の計画の中で1年目は何をやり、どれとどれをどのようにやっていくかということ議論しないといけない。おそらく最後の2年は第3期計画を作るだろう。スケジュールとしては計画期間の5年間で単年度1年間の両方がある。

委員長： 本来、この推進委員会の1回目をもう少し早い時期に開催し、中間で2回目を開催すべきだった。第3期計画に向けての準備も含め5年間の年次計画、例えば前半戦2年、後半戦2年半の4年半の第2期地域福祉計画の推進実施計画案を提出しなければならなかった。できれば秋にお集まりいただき提出させていただきたい。

とりあえず今年度、校区ごとの母体が作れば、もしくは先行してくれる校区が2か所くらい立ち上がってくると、他校区も追隨して2年めから走ってくれるとよいなという予測で見ていたが、先ほど委員からは差はつけてはいけないという意見もあった。

委員： 人が集まらないことが一番ネックになる。計画というのは緻密にやらないと進まない。私は障がい者団体の委員をやっているが、会員増幅という課題もあるが年2回の会合でどうあるべきなのかなかなか進まない。個人情報の関係で資料が手に入らないのもある。いずれにせよ第2期計画をひとつひとつやっていき土台を固めて進めていかないといけない。

委員長： タイムラグがあったのは申し訳ない。事務局会議において、もう少し緻密な行動計画を立てなければならない。今年度の推進委員会は2回の予定となっており、予定表は年度末になっているが、今後早い時期に機会を作って推進計画をお示ししたい。

### 3 その他

特になし

委員長： 他に無ければ、会議を終了する。